

山三昧（槍ヶ岳とアニュアルキャンプ・総会）
学部 22 回 岡井廣吉

令和 7 年(2025 年)に喜寿を迎えても元気に山三昧を続けています。

今年は 1 月 23 日に山形蔵王の樹氷観賞を皮切りに、2 月 25 日に東京都檜原村にある払沢(ほっさわ)滝の水瀑(凍結率約 60%)を見に行きました。

4 月 22 日には念願の立山黒部アルペンルートで大谷ウオーク(雪の壁約 16m)や室堂周辺の雪原を歩き回り、真っ白になった雷鳥夫婦にも会えました。55 年前の 1970 年 3 月末、春山合宿で立山駅から室堂のベースキャンプまで索道や雪原を約 50 kg のリュックを担ぎ 7 日かかり(ケーブルとバスでは約 1 時間 30 分)、立山・剣・奥大日岳を登攀し、下山したらよど号事件の報道を聞いてびっくりしたことを懐かしく思い出しました。

6 月 30 日からは八幡平と八甲田山のハイキングと温泉を楽しみました。

7 月 29 日から 2 泊 3 日で槍ヶ岳に 300 名山に挑戦している同い年の友人と登ってきました。一日目は上高地を 7 時 40 分に出発し、快調な足取りで宿泊地の槍沢ロッジに予定より早く 12 時 30 分着。二日目は池に映る逆さ槍を見たくて天狗原経由で槍ヶ岳を目指し、ロッジを 4 時にヘッドランプと熊鈴をつけて出発。天狗池近くまで行ったものの、池は残雪に覆われ逆さ槍は見れないとの情報をえて分岐まで引き返し、歩けど歩けど槍に近づけず、休み休みでやっと 11 時に宿泊地の槍ヶ岳山荘に到着。一休みして山荘でヘルメットを借りて槍ヶ岳山頂に 1 時間で登り、360 度の展望を楽しみました。夕食後、山荘で親しくなったオランダから来た青年(大学院を卒業して就職までの間を利用して来日しているとのこと)を誘って、近く 3000m 峰の大喰岳に登り、展望と夕景を楽しみました。三日目は槍ヶ岳の肩から昇る日の出をみて 5 時に出発、下りは転倒しないよう気を付けてゆっくと歩き、無事に 14 時上高地着。バスを待っている間、小梨平の日帰り温泉で汗を流しました。

9 月 14 日アニュアルキャンプ・総会

13 日東京から支部長の奈良修(G31)の車に同乗して行く予定でしたが、支部長が急用で欠席となり、樽井久益(G28)と私は平湯温泉まで高速バスを予約するも渋滞にかかる便しがなく、約 2 時間 15 分遅れで到着。状況をグループ LINE に報告し平湯で新穂高ロープウェイ行の路線バスを待っていると、12 日から燕岳登山をして車でヒュッテに向かっている高井剛(G40)と多田健二(G41)からすぐ近くにいるとの連絡が入り、ピックアップしてもらうことにしました。18 時過ぎになると真っ暗で、平湯バスターミナルの営業は終了しほとんど人はいない状況。4 人でヒュッテ向おうとしたところ、外国の老夫婦が不安そうに近づいてきて予約している旅館に行けない様子。旅館に電話してみると送迎はしていないとつっけんどうな返事だったので、先に老夫婦を一重ヶ根にある旅館に送り届けることにして、樽井と私は再度待つことにしました。



槍ヶ岳登山の写真

老夫婦はスイスからの旅行で、結婚以来 40 年間ずっと日本に行くことを夢見ていたとのことで、お送りして大変喜ばれ感謝されました。

こんなことがあり、ヒュッテに 19 時過ぎにやっと到着。前夜祭はすでに宴たけなわの状態、元気に再会を喜び合いました。

14 日総会が始まるまで近くをハイキングするつもりでしたが、未明から土砂降りの雨で中止し、お世話になっている中崎山荘の日帰り温泉を楽しみ、そば道 5 段の井上二郎さんの打ったそばを美味しくいただきました。

総会は 14 名の出席で、活動報告と会計報告、次年度の役員(田中会長以下継続)や活動計画等を審議し、承認されました。

総会后アニュアルキャンプに移り、能登の海の幸や名物のおでん等を肴に、イワナの骨酒をはじめアルコール各種を呑み、またファイヤーを囲んで山の思い出話をしながら楽しい時間を過ごしました。

15 日天気も回復し、皆で後片づけをして、また元気に再会を誓ってそれぞれ帰路につきました。